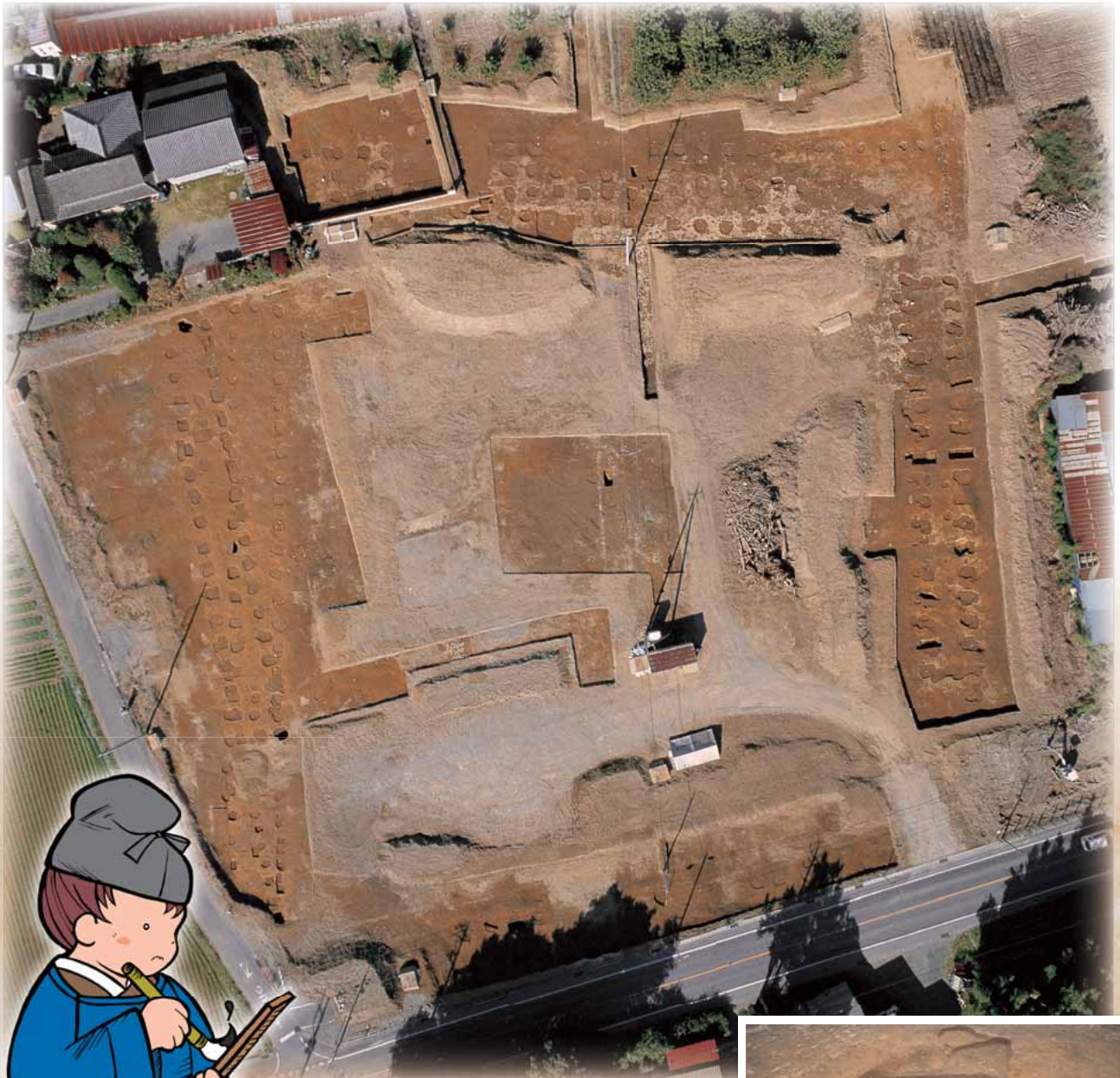


文化財だより

NO.6

発行 ● 太田市教育委員会 発行年月日 ● 平成20年3月31日 編集 ● 太田市教育委員会文化財課
住所 ● 群馬県太田市粕川町520 電話 ● 0276-20-7090



上空から見た新田郡庁跡(上が北)。東西南北には約50mの長大な建物跡(柱の跡)が並び、四角に郡庁(古代の役所の中枢部)の形を造っている。南には県道足利伊勢崎線が通っていて、南側の建物の一部は道路の下へと続いている。(H19.11.22撮影)



南側で見つかった柱穴



史跡 金山城跡 & 新田荘遺跡 の最新情報



金山城跡確認調査（松風峠・土屋敷）



- 調査場所 太田市金山町40-57ほか
- 調査期間 平成19年7月19日～
平成20年3月21日
- 調査面積 3,000㎡

平成19年度は、園路整備に伴う松風峠と前年度から始まった土屋敷の確認調査を実施しました。

松風峠の調査からは、土塁に伴う石垣と竪堀の造成面が確認されました。石垣は、金山城の最終時期と考えられている「アゴ止め技法」が使われていないことにより、北条氏の城となる以前に構築された可能性が考えられます。

土屋敷では、戦国時代の遺構を確認するために、深く掘り下げて調査を実施しました。調査の結果、今年度の調査区範囲では、大正時代に行われていた採石事業等により遺構は掘削されたと思われる、現存しない状況が確認されました。しかし、戦国時代に輸入された青磁や白磁、染付皿破片、国産の陶器や小皿破片が多量に出土していることにより、屋敷クラスの遺構があった可能性が考えられます。



土屋敷調査風景



松風峠調査風景



（仮称）史跡金山城跡ガイダンス施設・地域交流センター



「金山探訪の拠点」・「金山周辺の文化財めぐりの拠点」・「金山城に関する情報発信の拠点」として、平成19・20年度の2ヵ年で、（仮称）史跡金山城跡ガイダンス施設・地域交流センターを金山の麓に建設しています。

（株）隈研吾都市建築設計事務所の設計で、金山城跡の石垣をイメージした建物外壁となっています。

施設の中には、映像を使用して金山城を紹介したり、城跡から出土した遺物を展示するコーナーもあります。



平成19年度 史跡金山城跡整備事業（補助事業）



整備された見附出丸北石垣土塁と北堀切

平成19年度史跡金山城跡整備事業は、見附出丸北石垣土塁・北堀切遺構保護盛土工事と説明板設置工事を行いました。

工事に際して、平成18年度に行った北堀切周辺の地質調査によって、岩盤面の風化が著しいことがわかりました。土塁石垣の高さや小壇状の張出し遺構部の機能があきらかでないことなどを踏まえて、遺構を保護するための盛土による整備を実施しました。

その内容として石垣土塁上の遺構保護盛土の法面肩部にはリュウノヒゲを植栽して法面肩部の保護及び遺構表示を兼ねました。虎口周辺部には植生土のうを設置して斜面部の崩落防止及び通路幅を極端に狭くすることのないように配慮しました。堀切部は岩盤保護のため勾配を1：1.7に盛土し昨年度の南土塁・南堀切遺構保護工事に準じ、野芝を植栽しました。

整備手法としては、戦国時代当時の見附出丸の形状がわかりにくいこととなりますので、発掘調査で確認された見附出丸南土塁・南堀切と北石垣土塁・北堀切の内容を説明板にして、南と北それぞれ設置しました。この説明板で見附出丸における遺構の様子を理解できるようにしました。

この場所は、晴れた日には関東平野が一望できるため、訪れる人々の憩いの場となることが期待できます。



往時が解る見附出丸説明板



史跡 金山城跡 & 新田荘遺跡 の最新情報

金山城跡の公有地化

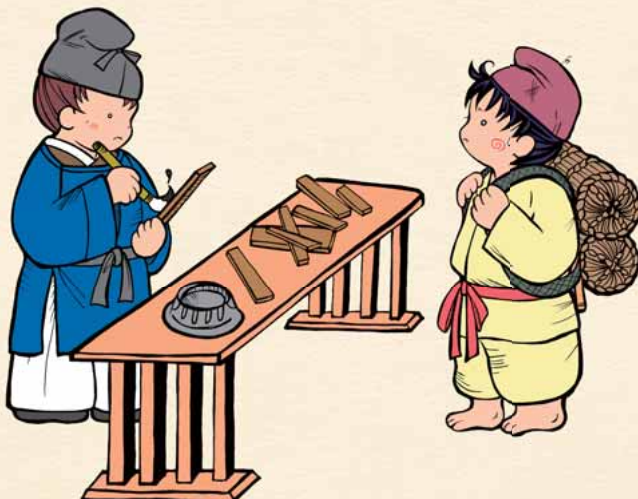
金山城跡は、昭和9年に国の史跡として18.3haの範囲が指定されましたが、その後、平成14年に追加指定され、指定面積は約5倍の97.8haに広がりました。この中には民有地が存在しており、城跡遺構群の保存管理と調査・整備の推進を図るため、現在、その公有地化を行っています。

平成19年度は1.3haを公有地化し、これにより、公有地面積は約95.5ha、公有地化率97.6%となりました。引き続き平成20年度以降も公有地化を進め、史跡金山城跡の保護と整備・活用の一層の推進を図っていきます。

金山城保存会

平成15年に、金山城跡の歴史的景観を自分たちの手で維持しようと発足した「金山城保存会」は、平成20年度も復元整備を完了した箇所を中心に草むしりや清掃活動を積極的に行っていました。

また、平成18年度からはボランティアガイドとしての活動も開始しました。





保存管理計画書

保存管理計画書は、史跡を適切に保存・管理し、後世に正しく伝えていくための計画書です。今年度は文化庁の補助金を利用し、専門委員会による審議をへて、「金山城跡」「新田荘遺跡」という太田市を代表する2つの史跡の保存管理計画書を作成しました。

「史跡金山城跡保存管理計画書」

19年度は5年計画の最終年度で、これまでの測量成果をもとに「史跡金山城跡保存管理計画書」を刊行しました。金山城跡は史跡指定範囲が広大で面積のほとんどを山林が占めていることから、遺構の整備や保護のほかに、植生の管理方法や自然環境の保全について示してあります。この計画書に基づいた整備が今後行われることになります。



専門委員会の様子

「史跡新田荘遺跡保存管理計画書」

19年度は3年計画の最終年度で、これまでの測量成果をもとに「史跡新田荘遺跡保存管理計画書」を刊行しました。新田荘遺跡は11箇所の遺跡をひとつの史跡にとらえた遺跡であるため、それぞれの遺跡についての具体的な保存管理の方法を示してあります。

また、史跡を今後活用していくための基本的な考え方なども示してあります。



史跡金山城跡保存管理計画書および
史跡新田荘遺跡保存管理計画書



ふれあい文化財教室

- と き 平成19年8月5日（日）
午前・午後の2回開催
- ところ 太田市立城西小学校（体育館）
- 参加者 310名

夏休み期間を利用して、太田市内在住の小学生とその家族を対象に「ふれあい文化財教室」として勾玉^{まがたま}づくり体験を開催しました。

参加者のほとんどがはじめての勾玉づくりでしたが、職員の指導のもと、加工のしやすい滑石^{かつせき}というやわらかい石を使用し、1時間半ほどでオリジナルの勾玉を完成させていました。

子どもたちはピカピカに輝く自分だけの勾玉を首にかけ、大変満足そうでした。

またこの勾玉づくりは“親子で一緒にものづく

りをする”という家族でふれあえる機会となった点も好評でした。



子どももおとなも真剣です!!
〈加工した勾玉に色を付けている様子〉

史跡めぐり

- テーマ 佐久平の歴史めぐり
- と き 平成19年12月2日（日）
- ところ 佐久市：新海三社神社・龍岡城五稜郭・貞祥寺・鼻顔稲荷神社
小諸市：小諸城址懐古園

今回は、「佐久平の歴史めぐり」をテーマとし、佐久市内の重要な文化財や小諸城址懐古園を見学しました。

佐久市では新海三社神社、貞祥寺、鼻顔稲荷神社という由緒ある寺社のほか、日本に2つしかない星形の擬洋式城郭のひとつである龍岡城五稜郭

を地元のボランティアの方に説明を受けながら見学しました。

小諸城址懐古園では観光ガイドの方のご案内のもと、城内をめぐりました。参加者は大河ドラマの主人公でもあった山本勘助や「小諸なる古城のほとり」の詩で有名な島崎藤村に思いをはせ、熱心に見学していました。

天候にも恵まれ、紅葉の残る美しい初冬の景色の中で歴史の息吹を感じた、充実した一日となりました。



小諸城址懐古園にて



紅葉に映える新海三社神社の三重塔
(室町期・国指定重要文化財)



文化財講演会

- と き 平成20年2月10日（日）
午後1時10分
- ところ 藪塚本町文化ホール
- 参加者 396名

平成19年5月に、天良七堂遺跡（天良町・新田小金井町）において、奈良～平安時代における新田郡衙の郡庁跡（今でいう市役所庁舎）と推定される遺跡が新たに発見されました。そこで今年度はこの「郡衙」をテーマとして文化財講演会を開催いたしました。この数十年に一度の発見により、講演会には前日の雪にもかかわらず、多くの方にご参加いただきました。また「天良七堂遺跡紹介パンフレット」についても、この日に合わせて作成し配布いたしました。



会場入口風景



講演会場内風景



講演中風景

基調報告①「天良七堂遺跡の発掘調査」



基調報告①をした小宮豪係長代理

今年度「天良七堂遺跡」の発掘調査において担当者であった太田市文化財課の小宮豪係長代理が基調報告をいたしました。実際の発掘状況など多くの映像を用いながらお話することができ、参加者からご好評をいただきました。

基調報告②「上野国における新田郡衙」

～ 県内遺跡と古代史料から ～

群馬県教育委員会文化課課長補佐である松田猛先生から、群馬県内の官衙遺跡を中心に、群馬県内における天良七堂遺跡について基調報告をいた



基調報告②をしていただいた松田猛先生

だきました。また、太田（大田）の地名から、周辺に屯倉が置かれていた可能性をご指摘いただくなど興味深いお話をいただきました。

講演「郡衙の姿と役割」

～ 天良七堂遺跡の調査成果をめぐって ～

奈良文化財研究所遺跡整備研究室室長である山中敏史先生から、郡衙全般についてのお話を中心に、全国における天良七堂遺跡についてご講演をいただきました。地方官衙遺跡の第一人者である先生が全国各地から集められた膨大なデータをもとに、難しい内容ながらもわかりやすくお話をしていただきました。特に新田郡庁が上野国における拠点的な郡衙であった可能性や蝦夷征討の拠点的作用を担っていた可能性をご指摘いただいたことなど誠に興味深いお話をいただきました。



講演していただいた山中敏史先生



ポスター



上空から見た西側調査区の全景



南上空から見た新田郡庁跡全景（約12000㎡）



確認された5号掘立柱建物跡（白線は柱の並び）





新田郡庁の確認調査

平成19年5月7日に始められた確認調査で、長さが50m前後の掘立柱建物跡（1号・2号）が見つかり、南に伸びた柵列から郡庁の西側の建物跡と推定されました。郡庁の規模を一辺が90mと想定し、地権者の協力を得て東側も調査をしたところ、同じ規模の掘立柱建物跡（3号・4号）が確認され、南側についても同様に5号掘立柱建物跡が確認されました。その後、北側についても地権者に協力を依頼し、調査を続けて予想どおり6号・7号掘立柱建物跡を確認しました。これによって、東西南北に長大な建物跡が配置されていることが確認されました。

結果として、日本最大規模の郡庁であることがわかり、古文書（上野国交替実録帳）に書かれている新田郡の郡庁の特徴とも一致していることなどから、平成20年1月に国指定史跡の申請をしました。



6号(白)・7号(黄)掘立柱建物跡全景(東から)



北西から見た3号・4号掘立柱建物跡(手前は石敷き)



すずりの復元図



出土したすずり(円面碗…えんめんけん)の破片



現地説明会

●実施日時

〈第1回〉 平成19年6月24日（日）
午前10時～4時

〈第2回〉 平成19年11月24日（土）
午前10時～3時

●場 所 太田市天良町7番地ほか

●遺 跡 名 天良七堂遺跡



第2回現地説明会（北調査区）



第1回現地説明会（南調査区）

文化財課では、発掘調査の成果についてできるだけ多くの方々に見ていただけるように、現地説明会を予定し実施しています。19年度は、全国的にも注目を集めることとなりました天良七堂遺跡において、2回にわたり説明会を実施しました。1回目は1050名の参加者に西・南・東の建物跡の配置をご覧いただき、2回目は605名の参加者に遺跡の全体について見ていただきました。

埋蔵文化財最新情報展「天良七堂遺跡の発掘」

●期 間 平成20年2月6日（水）～10日（日）

●会 場 藪塚本町文化ホール（大原町505-1）

●入場者 約450名

今回の展示では、天良七堂遺跡で発見された建物跡の写真パネルを中心に展示しました。また、天良七堂遺跡で出土した円面硯えんめんけんとその模型を展示しました。最終日は、文化財講演会と重なったため、400人近い人でにぎわいました。





塚井遺跡

- 調査場所 太田市沖之郷町地内
- 調査期間 平成19年1月30日
～平成19年7月31日
- 調査面積 約7,000㎡

国営荳川遊水池造成事業に伴って実施した発掘調査で、古墳時代前期の竪穴住居跡18軒、掘立柱建物跡（高床の建物又は平地式建物）35棟、土坑39基、柱穴749基や江戸時代以降の溝23条を調査しました。

昭和47年から56年に行われた休泊地区の県営ほ場整備事業によって上面を削り取られていたため、竪穴住居跡などの残りは悪かったのですが、掘立柱建物跡が数多く検出されたことが注目されます。北東約1.4km離れたところに存在する、4世紀中頃に造られた前方後方墳の藤本観音山古墳（国史跡・全長117m、足利市藤本町）との関係が注目されます。



土坑から出土した壺



遺跡の全景（上が北）



東部地区遺跡群



- 調査場所 太田市堀口町地内
- 調査期間 平成19年9月25日～平成19年12月21日
- 調査面積 約1,600㎡

尾島東部土地区画整理事業に伴って実施した発掘調査で、平安時代の竪穴住居跡14軒、鎌倉時代から江戸時代の掘立柱建物跡3棟、溝5条、土坑67基、柱穴41基が見つかりました。平安時代の竪穴住居跡のなかには、カマドの天井の一部が残っているものがありました。



天井の一部が残っているカマド



遺跡の全景（上が北）



平安時代の竪穴住居跡



やすらおか 安良岡古墳群



- 調査場所 太田市台之郷町地内
- 調査期間 平成20年3月11日～28日
- 調査面積 約1,200㎡

市営住宅の建て替えに伴って、発掘調査を行いました。この結果、古墳時代前期（今からおよそ1,600年前）の方形周溝墓7基や住居跡1軒などが発見されました。最も大きい2号墳は、長さ17mの方形に溝を巡らせた墓で、溝の中から当時の土器が出土しました。



出土した土器



安良岡古墳群全景

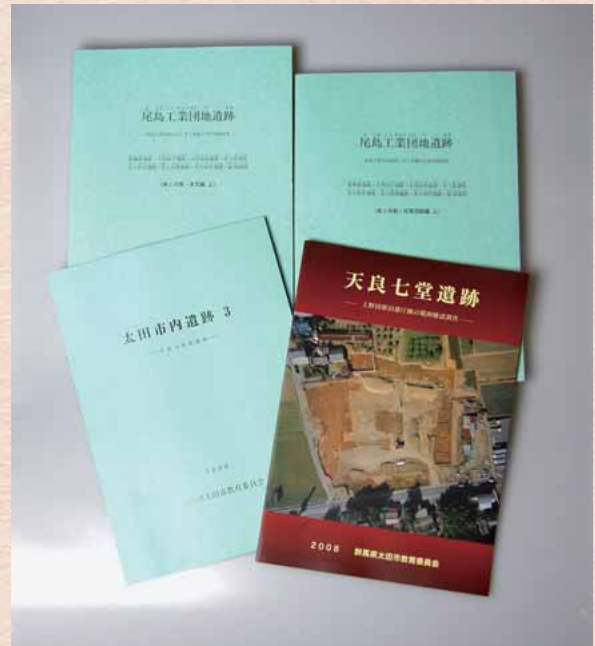


出土遺物整理作業

文化財課では、発掘調査の成果を公開するために、出土した土器の接合・復元作業を行ったり、復元した土器の実測・写真撮影等を行い、発掘調査報告書の作成等を行っています。

平成19年度は、前年度からの継続事業として実施している強戸口遺跡群や新野・脇屋遺跡群、今井地区遺跡群、太田市内遺跡の整理を実施しました。また、新たに19年度から天良七堂遺跡、塚井遺跡の遺物整理事業を始めました。

発掘調査報告書としては、「太田市内遺跡3」、「天良七堂遺跡」、「尾島工業団地遺跡」を刊行しました。



平成19年度に刊行した報告書

確認調査

No	遺跡名	所在地 (太田市)	確認 調査月	原因者	No	遺跡名	所在地 (太田市)	確認 調査月	原因者
1	一町田・堀の内遺跡	新田赤堀町	H19.4	民間	27	龍舞館跡	龍舞町	H19.10	民間
2	天良七堂遺跡	天良町	H19.5	民間	28	新ヶ谷戸遺跡	南矢島町	H19.10	民間
3	木戸海道遺跡	敷塚町	H19.5	民間	29	中原上遺跡	敷塚町	H19.11	民間
4	五庵遺跡	高林南町	H19.6	民間	30	宮前遺跡	飯塚町	H19.11	民間
5	高瀬前原遺跡	市場町	H19.6	民間	31	向野遺跡	高林東町	H19.11	民間
6	内金井周辺遺跡	新田金井町	H19.6	民間	32	今井地区遺跡群	世良田町	H19.11	民間
7	推定東山道駅路	東新町	H19.6	民間	33	東矢島遺跡	末広町	H19.11	民間
8	矢部遺跡	只上町	H19.6	民間	34	内ヶ島古墳群	内ヶ島町	H19.12	民間
9	東部地区遺跡群	堀口町	H19.6	民間	35	高林三入遺跡	高林北町	H19.12	民間
10	八幡林遺跡	市場町	H19.8	民間	36	福沢新田遺跡	福沢町	H19.12	民間
11	宮内遺跡	浜町	H19.8	市	37	細谷東遺跡	細谷町	H19.12	民間
12	上遺跡	鳥山上町	H19.9	民間	38	脇屋中原遺跡	脇屋町	H19.12	民間
13	向矢部遺跡	富若町	H19.9	民間	39	推定東山道駅路 (下新田ルート)	寺井町	H19.12	民間
14	推定東山道駅路 (下新田ルート)	寺井町	H19.9	民間	40	鳥山下遺跡	鳥山下町	H20.1	民間
15	一町田・堀の内遺跡	新田赤堀町	H19.9	民間	41	新野古墳群	新野町	H20.2	民間
16	舞台C遺跡	藤阿久町	H19.9	民間	42	上野井古墳群	新田村田町	H20.2	市
17	上野井遺跡	新田村田町	H19.9	民間	43	安良岡古墳群	台之郷町	H20.2	市
18	天狗林遺跡	由良町	H19.10	民間	44	細谷八幡遺跡	細谷町	H20.2	民間
19	高林遺跡	高林北町	H19.10	民間	45	細谷中遺跡	細谷町	H20.2	民間
20	西長岡宿遺跡	西長岡町	H19.10	民間	46	宮元遺跡	由良町	H20.2	民間
21	東矢島古墳群	末広町	H19.10	民間	47	清川遺跡	由良町	H20.2	民間
22	東矢島遺跡	末広町	H19.10	民間	48	杉ノ下遺跡	岩瀬川町	H20.2	民間
23	天良七堂遺跡	新田小金井町	H19.10	民間	49	宮西遺跡	東矢島町	H20.2	民間
24	矢太神遺跡	新田大根町	H19.10	民間	50	寺裏遺跡	鳥山上町	H20.3	民間
25	矢太神遺跡	新田大根町	H19.10	民間	51	中江田原遺跡	新田中江田町	H20.3	民間
26	脇屋中原遺跡	脇屋町	H19.10	民間					

事前協議

平成19年度 事前照合件数および調査面積

内 容	公共事業	民間事業	計
事前照合・協議	16 件	1,110 件	1,126 件
本発掘調査	3 件	4 件	7 件
確認調査	4 件	47 件	51 件
立会調査	5 件	43 件	48 件
慎重工事	4 件	42 件	46 件
確認調査面積	5,801.0 m ²	3,409.6 m ²	9,210.6 m ²
立会調査面積	358.0 m ²	320.5 m ²	678.5 m ²
本調査面積	9,800.0 m ²	2,090.0 m ²	11,890.0 m ²



世良田祇園屋台修復事業

世良田祇園屋台は、上町・上新田・今井・新町・大門・南八・下町・下新田の8台の屋台があり、平成18年度より1年に2台ずつ修復を行っています。

世良田祇園は、江戸の神田明神祭り・秩父の妙見祭りとならび関東屈指のとして賑わいを誇り、古くから庶民に親しまれてきた祭りです。中でも、彫刻・透かし彫り・彩色が施されている屋台は、祭りの華として、毎年巡行されています。

しかし、江戸時代後期に製作された屋台が多く、祭りのたびに組み立て・解体が繰り返され、各部材の傷みがひどい状況にあるため、この修復事業が始まりました。

平成18年度は上町と新町の屋台を修復いたしました。



解体作業（上町の屋台）



組立て作業（新町の屋台）



上町の屋台彫刻（修復後）



新町の屋台彫刻（修復後）



世良田祇園新町の屋台（修復後）



世良田祇園上町の屋台（修復後）

文化財模擬火災訓練

昭和30年に1月26日を「文化財防火デー」と定めて、毎年、全国的に文化財防火運動が実施されています。1月26日は、国宝法隆寺金堂壁画が焼失した日（昭和24年）にあたります。本市でも、消防本部・西部消防署等に指導を仰ぎながら関係機関及び地元住民の協力のもと、毎年、この日に近い日曜日に「文化財模擬火災訓練」を実施しています。

今年は、平成20年1月20日に新田市野井町の生品神社境内で行いました。

訓練は、午前9時から、生品神社社殿より出火という設定で発炎筒が点火され初期消火作業、消防車の出動、一斉放水などの一連の作業が手際よく行われました。関係者のみならず、地元住民との協力により見事な訓練を実施することができました。





高山彦九郎記念館

高山彦九郎記念館講演会

- と き 平成19年6月3日（日）
午後3時～午後4時30分
- ところ 太田市商業高校 文化棟ホール
- 参加者 136名

江戸時代の尊皇思想家の魁となる高山彦九郎は5回「京都」に滞在しており、彦九郎にとって京都はゆかりの深い地でした。その地を題材に講演していただくため、歴史作家である高野澄先生を京都市からお招きして「高山彦九郎・京都で『天下』を発見した」と題した講演会を開催いたしました。

京都における公家や藩士、学者、文化人との交流を通して、彦九郎の「意志の原点」や大学建設、尊号問題などを詳細に講演していただきました。

「新しい視点で彦九郎の行動を考えることができる機会となりました。」との参加者の声が印象的でした。



講演していただいた高野澄先生

高山彦九郎研究会学習会

- テーマ 「江戸旅行日記」と「古河のわたり」を訪ねる
- 講座 と き 平成19年8月18日（土）
ところ 高山彦九郎記念館2階
- 見学 と き 平成19年9月6日（木）
ところ 館林城跡・静御前の墓・熊沢蕃山の墓・古河歴史博物館・野木神社
- 参加者 35名



安永5年（1776）、30歳であった彦九郎が江戸の友人達を訪ねる「日記」をテーマとして、途中に立ち寄った史跡を訪ねる学習会を行いました。

見学では、館林城跡において「館林文化財ボランティアの会」の会長からご説明いただき、旧館林藩士住宅を復元移築した「武鷹館」も熱心に見学しました。

栗橋町では「静御前の墓」、古河市では江戸前期の陽明学者「熊沢蕃山の墓」・「古河歴史博物館」、野木町では「野木神社」を見学しました。

見学当日は台風9号が接近しており実施が心配されましたが、見学地では雨も降らず、すべて日程どおりに研修することができました。

彦九郎の日記に添って古地図と現地図を照らし合わせながら、参加者一同真剣に「足跡」をたどり、内容のある学習会となりました。



新収蔵資料展「利根路の秋旅」

- と き 平成20年3月15日(土)～6月8日(日)
- と ころ 高山彦九郎記念館2階展示室
- 主 催 太田市教育委員会

今年度、高山彦九郎の新たな未公開日記が確認され、彦九郎の研究・情報発信の拠点である当資料館に収蔵されました。

今回確認された資料は、安永4（1775）年、彦九郎29歳の時の日記で「利根路の秋旅」と題されています。内容は法事のために江戸から上野国細谷に下っていた祖父の弟に付き添って、利根川を船路で江戸へ向かい、中山道を通って帰郷するまでの7月8日から22日（日付は旧暦による）の記録で、当時の利根川・江戸川流域の河岸や村々の様子が詳細に描かれている他、道中における親類縁者からのもてなしや贈る土産の内容なども事細かに書き記されており、当時の習俗をうかがい知る上でも貴重な情報が含まれています。

この新資料をいち早く市民のみなさんに公開するため3月15日から企画展「利根路の秋旅」を開催しました。

4月20日までの第1期では江戸へ向う利根川の「船路」を中心に、4月22日からの第2期では江戸府内での友人たちとの交流の様子や、故郷・細谷へ帰る中山道の道中を中心に展示を行いました。

また会場には当時利根川の水運に使われていた「高瀬船」の模型や、彦九郎の立ち寄った場所の現在の様子を撮影した写真、江戸時代の交通に関する資料などもあわせて展示しました。



高山彦九郎自筆道中記
「利根の秋旅」



企画展展示風景



「利根の秋旅」彦九郎足跡図

高山彦九郎記念館案内

- 開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）
- 休館日：●月曜日（休日に当たる場合は翌日）
●年末年始（12月29日～1月3日）
- 入館料：個人100円 団体80円（20名以上）
※中学生以下は無料となります。
- 交通のご案内
 - 東武伊勢崎線細谷駅下車徒歩10分（800m）
 - 東武伊勢崎線太田駅下車タクシー10分（5km）
- 駐車場：普通車23台（バスも駐車可能）

高山彦九郎は上野国新田郡細谷村（現太田市細谷町）で生まれた江戸中期の勤王思想家で、明治維新を導いた幕末の志士たちに大きな影響を与えた人物です。

江戸・京都・細谷（現太田市）を拠点として全国各地を遊歴し、学者・文化人だけでなく、公家や諸国の藩主・武士・神官・農民など様々な人々



と交流しました。

彦九郎の思想と情報は、地域や階層を越えて伝わり、日本の歴史を動かす原動力ともなりました。

この記念館は、高山彦九郎を再評価し、その人物像を広く知っていただくため、平成8年5月3日に、国指定史跡・高山彦九郎宅跡附遺塚の隣接地に開館しました。



縁切寺満徳寺資料館

縁切寺満徳寺資料館 徳川大学公開講座

資料館では一般市民を対象とした公開講座に所在地名「徳川」を冠して、徳川大学として実施しています。講座のテーマは江戸時代と男女同権です。

第1回 公開講座

- と き 平成19年5月13日（日）
午後2時開演
- ところ 縁切寺満徳寺復元本堂
- 講 師 法政大学講師・学術博士
小泉吉永先生
- 参加者 54名
- 演 題 「寺子屋の世界—女師匠と子女教育—」



小泉吉永先生

第2回 大衆文化講座 御雛子と落語

- と き 平成19年6月14日（木）
午後6時30分開演
- ところ 縁切寺満徳寺復元本堂
- 演者・演目
桃月庵白酒師匠「佐々木政談」「親子酒」
古今亭菊可師匠「家見舞」「強情灸」
御雛子：小口けい社中
- 参加者 107名



桃月庵白酒師匠



古今亭菊可師匠



小口けい社中

第3回 伝統文化講座 箏

- と き 平成19年10月25日（木）
午後6時30分開演
- ところ 縁切寺満徳寺復元本堂
- 演 者 箏 仲林光子師匠
みさと笛 仲林利恵師匠
助演 箏 畠山千恵子師匠
打楽器 吉口克彰師匠
- 参加者 120名
- 演 目 「遠いうた」「秋の月変奏曲」「瀬音」ほか



仲林光子師匠（左） 仲林利恵師匠

第4回 伝統文化講座 琵琶

- と き 平成19年11月15日（木）
午後6時30分開演
- ところ 縁切寺満徳寺復元本堂
- 演 者 薩摩琵琶 錦心流中谷派 荒井紫水師匠
尺八 吉岡龍見師匠
- 参加者 135名
- 演 目 「忠度都落ち」「敦盛最期」「鶴の巣籠」ほか



吉岡龍見師匠（左） 荒井紫水師匠



第5回 公開講座

- と き 平成19年11月18日（日）
午後2時開演
- ところ 宝泉行政センター
- 講 師 江戸しぐさ語りべの会主宰 越川禮子先生
- 参加者 180名
- 演 題 「いきで素敵な江戸しぐさ」



越川禮子先生

特別展・三くだり半企画展

資料館では、春秋年2回企画展を行っています。かつて縁切寺であったことから「三くだり半」をテーマとした企画展をこれまでに20回、特別展を9回開催しました。

平成19年度開催企画展

- 特別展「寺子屋の世界」一女師匠と子女教育一
期間 平成19年4月28日～6月10日

- 第20回三くだり半企画展
「武士の三くだり半Ⅱ」

一御家人の離婚と離縁状一

期間 平成19年9月28日～11月11日

※20年度春の企画展は、特別展「江戸の子育て」を4月26日(土)～6月8日(日)に開催します。



資料館主催講座 (講師：縁切寺満徳寺資料館長 高木 侃)

三くだり半連続講座

- と き 平成19年10月11日（木）、
18日（木）、11月1日（木）
午後2時から
- ところ 縁切寺満徳寺復元本堂
- 参加者 延べ49名

ボランティアガイド養成入門講座

- と き 平成20年2月7日（木）、21日（木）、
3月6日（木）
午後2時から
- ところ 縁切寺満徳寺資料館館長室
- 参加者 4名





友の会主催

「狂言の夕べ」・「東慶寺見学会」

- 復元本堂で平成7年から「狂言の夕べ」を主催してきました。1回目は和泉流の和泉元秀・元弥師、3回目以降は山本東次郎師の至芸を堪能して、12年を迎えました。本年は平成19年10月9日（火）、演目は「鶏聲」「口真似」「河原太郎」の3曲のほか、東次郎師による絵解き（解説）がありました。



狂言 河原太郎

- 平成20年3月5日（水）44名の参加をえて、縁切寺として名高い鎌倉東慶寺の見学会を催しました。東慶寺では墓域と仏像特別展を開催中の宝蔵を見学。普段見られない高村光雲作の小観音菩薩立像などを拝観できました。また、東慶寺住職の計らいにより、円覚寺の国宝舍利殿を特別拝観することができました。



円覚寺舍利殿を案内する高木館長

縁切寺満徳寺資料館案内



復元された本堂

縁切寺は江戸時代夫の不法に泣く女性を救済して、夫との離婚を成立させる避難所（アジール）でした。最終的に幕府（国家）権力を直接の後ろ盾として離婚を強制する制度はほかにありません。ですから満徳寺は鎌倉の東慶寺とともに「世界に2つの縁切寺」だったのです。旧尾島町ではその文化的・歴史的意義を高く評価して、資料館とその後本堂を復元、旧境内を整備しました。

桜の開花に合わせてライトアップを行っています。期間中は、駆け込み門を開放し、抹茶接待も



行います。

- 開館時間：9時30分～17時
(入館は16時30分まで)
- 休館日：月曜日（休日にあたる場合は翌日）
年未年始（12月29日～1月3日）
- 入館料：個人200円 団体160円（20名以上）
※中学生以下は無料となります。
- HP <http://www8.wind.ne.jp/mantokuji>



藪塚本町歴史民俗資料館

藪塚本町歴史民俗資料館のリニューアル

平成20年2月末において、当館の常設展示の一部をリニューアルいたしました。テーマは、「天良七堂遺跡とその周辺遺跡」です。

普段見ることのできない県指定重要文化財「唐三彩陶枕」や、市指定重要文化財「寺井廃寺の瓦」は特に注目していただきたい展示品です。

また、平成19年2月に行われた文化財講演会で上映した「天良七堂遺跡の紹介映像」も上映しております。現在ここでしか見ることができませんので、ぜひ一度おこしください。



リニューアル後の館内



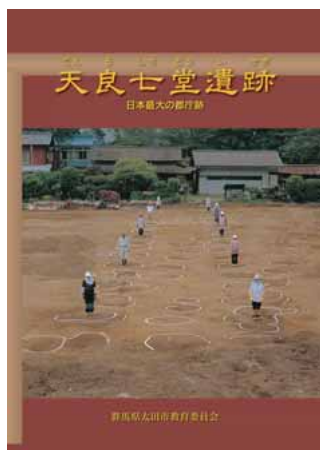
唐三彩陶枕（県指定重要文化財）

藪塚本町歴史民俗資料館案内

当館は、藪塚温泉今井館主であった今井新次氏が、県内外から収集した埋蔵文化財などを旧藪塚本町に寄贈したことにより、昭和53年に開館しました。

石田川式の型式資料となった土器や街道橋古墳の陶棺、市内から出土した各種埴輪、その後の発掘調査で出土した石之塔遺跡（縄文時代後・晩期）の土製耳飾や岩版のほか養蚕関係を中心とした民具を展示しています。

現在、入館された方には「天良七堂遺跡紹介パンフレット」を差し上げています。



天良七堂遺跡
パンフレット



岩版と土製耳飾り（石之塔遺跡出土）

- 開館時間：9時30分～17時
- 休館日：●月曜日（休日にあたる場合は翌日）
●年末年始（12月29日～1月3日）
- 入館料：個人100円 団体80円（20名以上）
※中学生以下は無料
- 住所：〒379-2301 太田市藪塚町149
TEL0277-78-5728